

昭和十六年六月十八日日蘭會商決裂し、日本は其血脈である石油ルートに
 大なる不安を惹起し、加へて泰佛印に對する英米の政治經濟軍事攻勢に先
 制せられる虞も生起して來たので遂に七月二日の御前會議で「情勢の推移
 に伴う帝國國策要綱」を決定し、南部佛印進駐を敢行しにことは、前章「
 日本國策の躍進」の項に詳述した通りであるが、當時日本の統帥部も政府
 も米國が全面的經濟斷交を爲すものとは考へて居ず、日米交渉は依然繼續
 し、交渉に依り更に打開の途は半々位の公算であり得ると考へて居たとこ
 ろが、米英蘭は資金凍結、禁油と云う風に、經濟戰爭の手を打つたので、
 ここに日本統帥部は正式に對米英蘭作戰構想の検討へと發足したのである
 此作戰要領は純作戦的には勿論、年度對米（對英）作戰要領に新に對蘭作
 戦要領をも加へてこれを調整統合した點はあるのであるが、他面に於ては
 國內資源の枯渴しない間に最短期間に確實に南方資源地帯を獲得するを絶
 對に必要とすると云う至上課題が加わつて戰爭計畫的要素を重視して、作
 戦要領を之に隨動案畫しなくてはならなかつたのである。

昭和十六年七月二十九日企畫院は先づ政府及統帥部に對し「戰爭遂行に關
 する物資動員上よりの要望」（考證資料第二十九號參照）と云うものを明
 かにして、資源戰爭の基礎をこれに置くべく要望した、そしてその結論と
 して

「帝國物資力の實情前述の如きを以て徒に國際政局の局部的波動を逐ひて
 武力戦を展開するは戒むべきものなりとす、然るに反面現状を以て英米
 等に依存し資源を獲得して國力を培養せんとするも今や極めて困難とす
 る所にして現状を以て推移せんか帝國は遠からず瘦衰起つ能はさるべし

即ち帝國は方に遲疑することなく最後の決止を爲すべき竿頭に立てり、尙武力戰の指導に當りては國際政局が南北兩面關聯不可分なるにより至短期間内に作戰成果を生産的活用に轉換し得る如く統帥上萬全の計畫を進められ度として居る。

かくの如き事情によつて、作戰構想は日本は開戰の場合其劈頭南方資源地帯を略取し、且確實迅速に米英蘭の在東洋兵力を撃滅して制空制海權を握るにあらざれば、物資動員上最少限の要請を充足し得ない見地より

(一)先づ蘭印を略取して後に馬來、比島にかゝる

(二)比島、ボルネオ、ジャヴァ、スマトラ、馬來と云う順序に逐次右廻りの作戰線で進む

(三)馬來、スマトラ、ボルネオ、ジャヴァ、比島と云う順序に逐次左廻りの作戰線で進み出来る限り米國との開戰を遅らす

(四)比島、馬來に同時に手をつけて後逐次且迅速に二作戰線で南下する

この四つの構想案を繞つて陸海兩統帥部間で研究討論が盛に行はれた。

第一案は米英の有力な根據地である比島、馬來を作戰線の後方に殘して、突如蘭印を占領すると云う様な事は、作戰上困難であると云う事ときまり陸軍は第三案、海軍は第二案を主張したが、第二案は順序としては兵力の集中使用上も作戰線としても確實な方法であるが、スマトラ、馬來に手をつける時分には其の防備は堅固となり、抜き得ざる事となる虞があり。

第三案は、政略的には獨逸の主張する様に比島をあと廻しとすることにより米國の參戰を遅らせる機會があるかも知れないが、作戰的には馬來、蘭印を略取してもその間に堅固となつた比島に米國の強力な兵力(特に海空

兵力一が展開すれば、作戦線は中斷せられ、攻略地域を放棄する様な事態に陥り且、一番作戦的に強力な地域である比島をあと廻しにすれば、これも遂に兵力上抜き得ない事となる。

この様な一長一短を比較研討した結果遂に、兵力之を許せば、第四案の比島、馬來同時作戦により、二作戦線によつて急速南下して、油田地帯に達すると云う構想に進んだのであつてこれが昭和十六年八月中旬頃の情況である。

對米英蘭海軍作戦計畫の研究、策定

前述の様に基礎研究を了へて、陸海軍統帥部間に、作戦構想が一致したのでこれより作戦計畫の研究、策定に入つたのであるが、大本營海軍部は、概ね九月上旬迄に一應の作戦計畫假案を完了しこれを、恒例の聯合艦隊研究圖上演習にかけて、検討する事とした。そこで聯合艦隊は昭和十六年九月十日より十三日迄東京目黒の海軍大學校に於て、山本聯合艦隊司令長官が統監となり、聯合艦隊各級指揮官、幕僚を參集せしめ、軍令部職員の援助のもとに例年行はれて來た聯合艦隊特別圖上演習（戰略研究を主としたもの）よりも企模稍大がかりで且中央の作戦計畫假案を基礎とした想定に基いて、圖上演習を實施した。この圖上演習で研究された項目は西部太平洋管制作戦（在東洋米英蘭要域攻略作戦）と布哇方面奇襲作戦の二つであつたが、前者に對しては細密に演練され、後者に對しては特定の關係者だけで、極秘裡に研究的の演練をやり研究會も別個に行はれ、秘密嚴守に努めた。

この圖上演習によつて豫定戰略構想が大體妥當であるとの見透しがつき、且細大となく各種の意見が出たのでこれを參考として大本營海軍部は愈々